

# 小規模多機能型居宅介護 サービス評価

## 【様式集】

- ◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表  
外部評価 地域かかわりシート②（結果まとめ様式）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	㈱なんてん共働サービス	代表者	中村 定義	法人・事業所の特徴	認知症になっても、障害があってもいつまでも住み慣れた所で、自分らしくみんなと一緒に 助け合って 暮らし続けることができるような 手助けをする
事業所名	小規模多機能型居宅介護 樹林	管理者	北村 睦美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	6人	1人	1人	1人	人	4人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	(なし)	自己評価に参加したスタッフが去年の4名から7名に増えた。	自己評価に参加したスタッフに、評価のねらいが十分に説明できていなかった。	新年度のスタッフ評価を10名に増やす。
B. 事業所のしつらえ・環境	玄関先に花などを置く。	ほぼ年中きれいな花が飾られていた。 窓のカーテンを開けて、地域の方とのやり取りができています。	洗濯物の室内干場がないので、会議室などに干している。 トイレの呼び出しブザー音が場違いで改善が必要。 居室内にオムツの袋がむき出しになっていたが改善中である。	室内洗濯干場、もしくはコーナーを作る。 呼び出しブザーを交換する。
C. 事業所と地域のかかわり	樹林だより3号(A4 1枚)を発行する。	今年度1回だけ発行できた。	近所の方で樹林を知っている方は1人でした。 地域に開かれた事業所であることをスタッフも少しずつ意識できている。	樹林の中での生活の質を高めて(いい雰囲気・入りやすい雰囲気作り)、もっと地域の方に知って頂く。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	月1回のドライブを行う。	計画の意図は、イベントとしてではなく、日常の訪問の中で臨機応変にドライブなどに出かけられたらいいなという事だったが、伝わりきれっていなかった。	スタッフ不足で余裕がないことが多いが、スタッフの力量アップで地域の中でのおとしよりの暮らしを支えて行くことはできる。	何気ない地域の日常生活に寄り添う。(近くの保育所の角にある桜を見に行く)
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議委員さんとの交流  (焼き芋をする)	コロナ感染者が増えて、焼き芋できなかった。	今後は運営推進会議で地域の心配に思われる方について共有ができたらいいい。 委員のご意見により、樹林便りを発行できた。	地藏盆を地域の方と一緒にやりたい。

F. 事業所の 防災・災害対策	地域（南区38組）の避難訓練に参加する。	避難訓練に参加出来なかった。 避難訓練の日時など、回覧版の確認が十分でなかった。	防災計画（消防計画）を作成したが、委員やスタッフに十分に知らせることができなかった。 委員や近所の方に事業所の避難訓練の案内ができていなかった。	事業所の避難訓練の日程を38組の皆様にお知らせする。
--------------------	----------------------	---	---	----------------------------